

# 富山県英語教育改善プラン

実施内容

**●富山県の英語・グローバル教育の目標**  
 ふるさと富山への誇りと愛着をもち、広く世界に目を向け、国際的な視野を有し、未来を自ら切り開き、世界を舞台に活躍する人材の育成

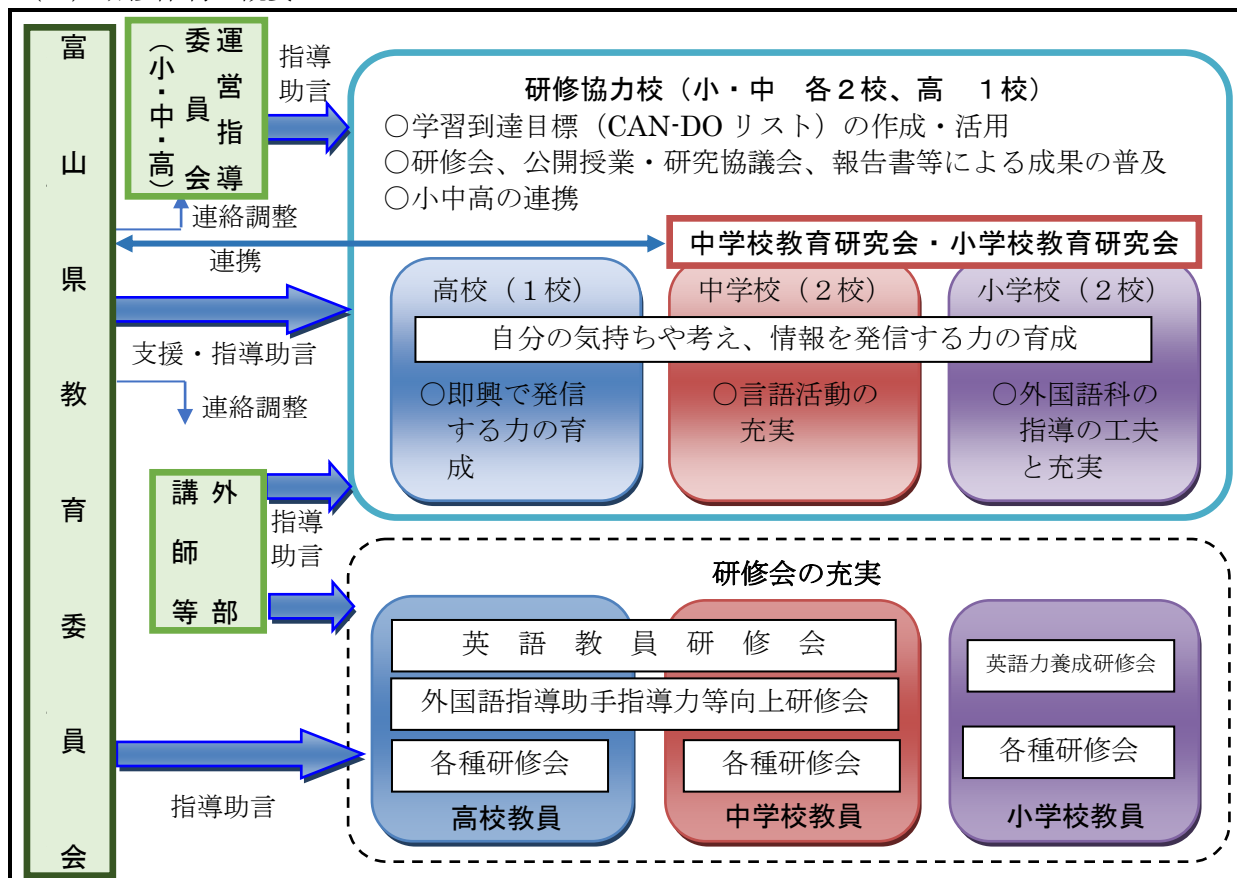
**●富山県が目指す英語教育を通して育成する児童生徒の力**

ふるさと富山に誇りと愛着をもち、  
 自分が住む地域や富山について世界に発信することができる力

**●富山県の英語教育の課題**

- ①児童生徒の英語力の向上
- ②教師の指導力・英語力の向上
- ③小・中・高等学校の連携

(1) 研修体制の概要



（2）英語教育の状況を踏まえた目標

① 求められる英語力を有する英語担当教員の全英語担当教員に占める割合

【高校】R03 達成値：87.6%→R04 目標値：80%

【中学校】R03 達成値：53.0%→R04 目標値：55%

中学校は目標には達していないが、増加傾向にある。

引き続き、研修会等では、教員が英語を使用する機会を増やすなど実施方法を工夫し、英語力向上への意識を高めさせるとともに、自己研鑽を推奨していく。また、機会を捉え、英語教員を対象とする外部検定試験の特別受験制度について紹介するなどして、英語教員に外部検定試験の受験を促す。

② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

【高校】R03 達成値：59.3%→R04 目標値：50%

【中学校】R03 達成値：43.8%→R04 目標値：50%

中学校では、毎年、求められる英語力を有する生徒の割合は高くなってきていたが、令和3年度は、令和元年度と比較して減少した。求められる英語力とはどのような力か、生徒がその力を身に付けるためにはどうしたらよいか、そしてその力をどのようにして測るかなど、「CAN-DO リスト」の活用が必要となる。研修会等で活用法等を周知し、生徒の英語力の育成につなげる。

高校では目標値を達成している。これまで、学校訪問や研修会等において、生徒の4技能5領域をバランスよく伸ばすことができるよう、指導と評価について改善を促すとともに、生徒の能力を客観性のあるデータも用いて適切に測るために、外部検定試験を活用することを各学校に推奨してきている。今後は、新学習指導要領の適切な実施に向け、その趣旨を踏まえた授業改善を促すことによって、実践的な英語力が身に付く指導を行う。また、CAN-DO リストや年間学習計画に基づいた、指導と評価の一体化を目指し、教員が生徒の英語力を適切に評価する力を養うために、評価に関する教員研修を一層充実させていく。

③ 「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標の整備状況

【高校】（設定）R03 達成値：100%→R04 目標値：100%

（公表）R03 達成値：50.8%→R04 目標値：100%

（達成状況の把握）R03 達成値：55.5%→R04 目標値：100%

【中学校】（設定）R03 達成値：100%→R04 目標値：100%

（公表）R03 達成値：26%→R04 目標値：100%

（達成状況の把握）R03 達成値：46.8%→R04 目標値：100%

【小学校】（設定）R03 達成値：72.6%→R04 目標値：100%

（公表）R03 達成値：26.8%→R04 目標値：80%

（達成状況の把握）R03 達成値：55.9%→R04 目標値：50%

CAN-DO リストは、中学校、高校全ての学校で作成されているが、CAN-DO リストの公表や達成状況の把握においてはまだ不十分である。小学校に関しては、まだ作成も十分ではない。

CAN-DO リストがあまり活用されない理由は、それぞれの単元でどのような力（CAN-DO）を育てるかという意識が弱いからであると推測される。CAN-DO リストと単元指導計画・年間指導計画等をリンクさせ、単元に入るときに教員がそれを意識するようになれば、活用するようになり、達成状況の把握もパフォーマンステストで行うという見通しがもてるようになると考えられるので、そのような視点をもてるような研修を実施する。

小・中・高校合同研修会等では、CAN-DO リストの中・高校における活用法等を小学校と共通理解し、全校種での一貫した活用につなげる。さらに、児童生徒の実態に応じて適宜修正を加え、PDCA サイクルで改善を図っていくよう促していく。また、小学校、中学校、高校とも、公表率が低いことから、CAN-DO リストの内容を生徒や保護者に伝え、共通理解のもと指導することを推奨する。

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の占める割合

【高校】R03 達成値：63.3%→R04 目標値：70%

【中学校】R03 達成値：68.6%→R04 目標値：90%

中学校、高校とも、授業における生徒の言語活動は比較的良好に行われている。

中学校では、令和元年度よりも割合が低くなった。やり取りして話す言語活動等を控えたことも考えられるが、文法事項の理解のための説明が多くなっていることも憂慮される。文法事項の理解や定着にもつながる言語活動の実践例を示し、体験的理解を促すことができるような研修を実施する。

また、高校では、コミュニケーション英語科目に比べ、英語表現科目における言語活動時間の割合が低く、これは、英語表現科目の授業において文法事項等の説明及び問題演習に時間を費やしている教員が未だに多いことが一因である。各学校における言語活動のバリエーションを広げ、技能統合型の言語活動を一層充実させるため、各種研修会等において、他校と情報交換する講座や、論理・表現科目や英語表現科目の指導方法を共有する講座、教員による効果的な言語活動の体験授業を設け、言語活動の工夫を意識付ける。また、英語科全体として授業改善を図っていくよう働きかける。

⑤ 「話すこと」及び「書くこと」における「外国語表現の能力」を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

【高 校】（スピーキングテスト→コミュニケーション英語Ⅰ）

R03 達成値：1.6回→R04 目標値：3.0回（英語コミュニケーションⅠ）

【高 校】（ライティングテスト→コミュニケーション英語Ⅰ）

R03 達成値：2.8回→R04 目標値：3.0回（英語コミュニケーションⅠ）

【中学校】（スピーキングテスト）

R03 達成値：4.2回→R04 目標値：5.0回

【中学校】（ライティングテスト）

R03 達成値：3.7回→R04 目標値：5.0回

パフォーマンステストの重要性については、これまでもあらゆる場面で強調してきている。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、やむを得ずスピーキングテストを中心に実施を見送った学校が散見された。次年度以降は、新型コロナ禍での実施方法について、各校に検討を求める。

中学校では、パフォーマンステストの実施回数は年々増加しているが、目標値には達していない。令和2年度、3年度には、「英語教員研修会」等において、文部科学省の視学官や教科調査官、大学教授からパフォーマンステストの評価に関する講義を受け、講義中にパフォーマンステストの実施について演習・情報交換を行った。今後も、授業における言語活動の充実と、その評価のためのパフォーマンステストの充実に向けて研修を実施していく。

高校では、実施回数では改善がみられるものの、まだ不十分である。すべての科目でスピーキング・ライティングの両方のパフォーマンステストが必ずしも実施されていない背景には、「話すこと」（特にやり取り）の評価にまだ馴染みが薄かったり、依然としてリーディング重視の意識があったりすることが考えられる。そのため、取り組みやすいパフォーマンステストやリーディングを含むパフォーマンステストの例を体験してもらう研修を企画する。また、責任をもって担当科目を評価するため、全ての科目においてパフォーマンステストを実施する必要性に対する教員の意識を一層高めていく必要がある。評価に関しては、英語教員研修会等における研修の実施とその実施内容の普及により、年々その客観性は高まってきていると思われるが、各学校におけるパフォーマンステストの適切な評価法について、一層の改善を図れるよう、研修を計画する。

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況

【高 校】 R03 達成値：58.6%→R04 目標値：75%

【中学校】 R03 達成値：62.4%→R04 目標値：90%

中学校では、教員の英語使用状況は令和元年度よりも低くなっている。日本語で説明する場面が多くなっていることが憂慮される。50%以上使用していると回答している教員の8割以上も「発話の50%程度以上から75%程度未満」の状況である。

高校では、学校訪問や研修会の機会を通じて、英語で授業を行う具体的な方法等について周知を図っているが、まだ目標には届いていない。学年が上がるにつれて、教員が英語を使用する割合が下がる傾向が見られ、特に「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅱ」における教員の英語使用率が低い状態が続いており、改善の余地がある。

今後は、研修協力校を中心に、教員が英語を使って生徒に統合的な言語活動を行わせているモデルを示すとともに、授業における英語の使用率を高め、全ての教員が授業をおおむね英語

で行うことを目指す。

⑦ 異校種連携の状況

【高校】(中高連携を実施) R03 達成値：81.1%→R04 目標値：80%

【中学校】(小中連携を実施) R03 達成値：55.8%→R04 目標値：100%

令和3年度は、英語教員研修会と英語力養成研修会を同日同会場で計画することで、小・中・高校の連携講座を実施できた。具体的には、「新学習指導要領における小中高の連携について」と題し小中高の連携について講義を行い、「ICTの活用について」のワークショップを実施し、情報交換を行った。小中高の情報交換会では、グループを近隣の小・中・高校で設定し地域ごとの異校種交流の場とした。参加者からは近隣の学校がどのようなICT活用を行っている、どのようなICTリテラシーを持った生徒が進学してくるのかについて、具体的なイメージが持てた、他校種の指導法が非常に参考になった等の声が聞かれた。

今後とも、小学校教員対象の「英語力養成研修会」と、中学校・高校教員対象の「英語教員研修会」をそれぞれ実施する。研修会の日程や内容を調整し、中高の教員、小中の教員が情報交換できる機会を設けるとともに、小中高の異校種合同研修を実施し、地域ごとの異校種交流の場を設定する。具体的には、中学校教員に小学校の教科書、リスニング教材を見てもらうだけでなく、実際に言語活動を体験してもらうなど、体験的理解につなげ、スムーズな指導の連携につなげる。高校教員においては、小中学校の教員の視点からの指導法や評価方法を学ぶことで、特に入学時における中学校からの指導の接続の検討や、評価につなげることとする。

また、研修が教員の過度な負担にならないよう、他の研修を兼ねて実施するなどして研修の機会を確保し、できるだけ多くの教員が研修に参加できるようにするとともに、充実した研修となるよう内容を工夫する。

⑧ 小学校の新規採用者に占める一定の英語力を所有する者の割合と手立て

2020		2021		2022	2023	2024	2025
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値	目標値
10%	9.88%	15%	11.2%	20%	30%	40%	50%

【教員採用検査における加点制度の導入】

- ・教員採用選考検査小学校受検者においては、英語免許保有者及び一定の英語力（TOEIC730点以上、TOEFL iBT80点以上またはPBT550点以上、実用英語技能検定準1級以上）を有する者への加点制度を設けている。
- ・加点制度については、県教育委員会が大学訪問を行い、教職を目指す学生に直接説明を行い周知している。

【中長期的な視点での教員確保に向けた取組の強化】

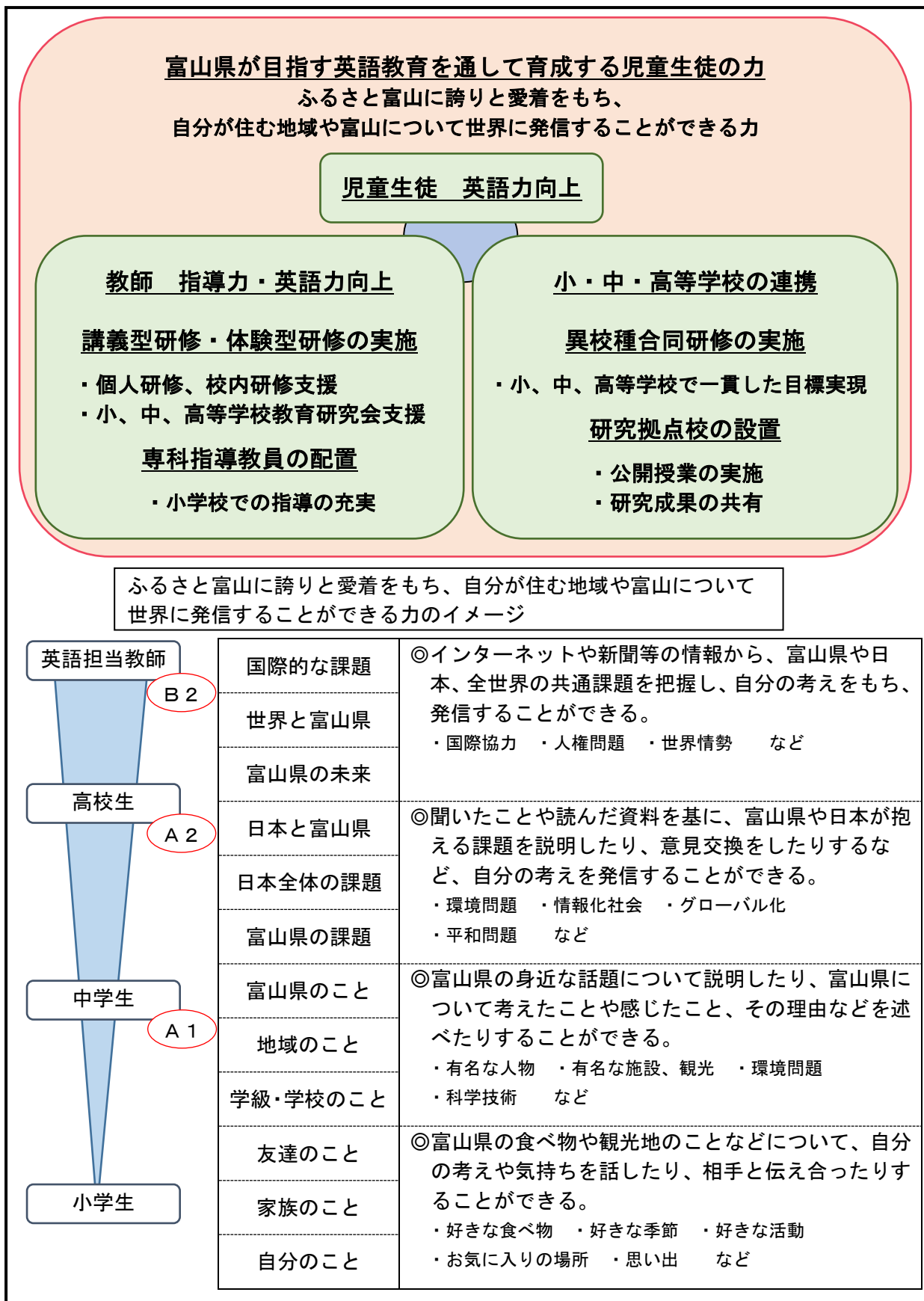
- ・中長期的な視点での教員確保に向けて、教員を目指す学生を増やすために、令和元年度から東京、京都、名古屋において、教員志望の本県出身学生や他県出身の現職教員等を対象とした「教員UIJターンセミナー」を開催するとともに、県内や近県の大学生を対象に、本県教員を目指してもらうための「教員養成講座」を開設している。
- ・現役の大学生に、富山県の魅力を伝えたり、富山県の教員採用検査についての説明を行ったりするために、これまで実施している大学訪問については、新型コロナウイルス感染症拡大予防に配慮し、オンラインによる実施やリーフレット等の配布により対応した。

⑨ 2025年度までの計画

2020年度	・教員採用検査小学校受検者における英語免許保有者及び一定の英語力を有する者への加点制度の継続による教員確保。
～	・地域大学との連携により、英語の得意な教員志望の大学生を小学校に派遣している「英語学習パートナー派遣事業」をより充実させることによる、英語専科教員となる人材の育成・確保。
2021年度	・中高受検者を小学校で採用するなど、受検校種枠を超えた採用による教員確保。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教員 UIJ ターンセミナー」や「教員養成講座」の実施、及び大学訪問数の拡充により、受検者数を増やすことによる教員確保。</li> <li>・上記の取組についての見直し。</li> </ul>
2022年度 ～ 2023年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内出身学生の県内での教育実習受入等、地域大学との連携による教員確保。</li> <li>・英語免許取得可能な大学を中心に、大学訪問の拡充による教員確保。</li> <li>・教員採用検査小学校受検者における英語免許保有者及び一定の英語力を有する者への加点制度の継続による教員確保。</li> <li>・地域大学との連携により、英語の得意な教員志望の大学生を小学校に派遣している「英語学習パートナー派遣事業」をより充実させることによる、英語専科教員となる人材の育成・確保。</li> <li>・中高受検者を小学校で採用するなど、受検校種枠を超えた採用による教員確保。</li> <li>・「教員 UIJ ターンセミナー」や「教員養成講座」の実施により、受検者数を増やすことによる教員確保。</li> <li>・上記の取組についての見直し。</li> </ul>
2024年度 ～ 2025年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別免許状発行による教員確保。</li> <li>・県内出身学生の県内での教育実習受入等、地域大学との連携による教員確保。</li> <li>・英語免許取得可能な大学を中心に、大学訪問の拡充による教員確保。</li> <li>・教員採用検査小学校受検者における英語免許保有者及び一定の英語力を有する者への加点制度の継続による教員確保。</li> <li>・地域大学との連携により、英語の得意な教員志望の大学生を小学校に派遣している「英語学習パートナー派遣事業」をより充実させることによる、英語専科教員となる人材の育成・確保。</li> <li>・中高受検者を小学校で採用するなど、受検校種枠を超えた採用による教員確保。</li> <li>・「教員 UIJ ターンセミナー」や「教員養成講座」の実施により、受検者数を増やすことによる教員確保。</li> <li>・上記の取組についての見直し。</li> </ul>

(3) 目標を達成するための取組



■ 研修協力校による研修

**目的** 学習指導要領の趣旨に即し、研修協力校独自の学習到達目標とそれに基づく英語指導法に関する研究を行う

**研修体制**

① 研修協力校の設置

【高校】 【中学校】 【小学校】

- ・小・中学校に2校ずつ、高校に1校、計5校の研修協力校を置く。
- ・富山県の英語教育の課題を中心に、英語科全体で取り組む。
- ・各研修協力校で公開授業・研究協議会を実施する。また、研究協議会では、参観した授業についてグループ協議を行い、その後全体で意見を共有し、授業者、参観者の両者にとって有意義な協議会となるよう工夫する。
- ・各種研修会等を利用し、研修協力校が研究実践の経過・成果を発表する機会を設ける。

② 運営指導委員会による研修

【高校】

- ・富山大学の英語教育を専門とする教授を運営指導委員に加え、運営指導委員と指導の方向性について協議しながら、継続的に研修協力校の指導にあたる。
- ・各研修協力校で運営指導委員会を実施し、授業参観後、研修協力校の実態に応じた英語の指導法について協議し、運営指導委員が指導助言を行う。
- ・研修協力校での公開授業と研修協力校以外の教員も含んだ研究協議会を実施し、運営指導委員による指導助言を行う。
- ・年度末には運営指導委員会を実施し、研修協力校と運営指導委員で成果と課題の検討を行う。
- ・各種研修会において研修協力校の研究実践発表を実施し、運営指導委員による指導助言を行う。

③ 小学校教育研究会、中学校教育研究会との連携

【小学校】 【中学校】

- ・小学校と中学校のほぼ全ての教員が参加する小学校教育研究会、中学校教育研究会と連携し、各研修協力校を中心として該当地域の研修会の活性化を図るとともに、各研修協力校における研究の推進を支援する。

④ 小中高の連携

【高校】 【中学校】 【小学校】

- ・研修協力校等における公開授業や研究協議会の実施に当たっては、当該校種のみならず、異校種の教員にも広く参加を呼びかける。
- ・年度末に、具体的な実践例を含む研修報告書を作成し、全ての県立高校の英語教員、全ての小・中学校に配布する。

■ 英語教員研修会の実施

**目的** 高度な英語力をもち、世界で活躍するグローバル人材を育成するため、英語教員の指導力の向上を図る。

**実施形態** 夏期休業期間中（計2日間）

**対象者** 中学校・高校の英語教員（約120名）

- 研修内容**
- ・県内外の講師によるパフォーマンステスト、ディベート、統合的言語活動や評価のあり方等に関するワークショップを実施する。
  - ・新学習指導要領に対応するための授業改善実践例等を持参し、グループ協議・情報交換を行う。
  - ・「英語力養成研修会」に参加している小学校教員、中・高の英語教員合同の情報交換・協議（言語活動、CAN-DO リスト、年間指導計画、パフォーマンステスト、ICT等）を行う。

- その他**
- ・各種資料は全ての参加者に配布し、各学校で活用するよう指示する。
  - ・「教員に求められる英語力」（CEFR B2 レベル相当以上）を有していない教員には、外部検定試験の受験を促す。
  - ・研修後はアンケート調査により現状把握を行い、その後の訪問指導における指導



	助言や次年度の研修会に生かす。
<b>開催方法</b>	・新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、地区ごとに受講日を設定し、1部屋あたり、1日あたりの参加人数を減らすこととする。
<b>■英語力養成研修会の実施</b>	
<b>目的</b>	小学校教員の英語力、英語指導力の向上を図る。
<b>実施形態</b>	夏期休業期間中（計2日間）
<b>対象者</b>	全公立小学校から1名の教員（悉皆研修）、英語専科講師等（希望研修）（約210名）
<b>研修内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による講演会等を実施する。</li> <li>・英語教員研修会に参加する中・高等学校英語科教員との合同研修会を実施し、情報交換・協議等を行う。</li> </ul>
<b>その他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部検定試験の特別受験制度についての案内を配布し、特に英語免許保有者を中心に英検・TOEIC等の資格取得を促す。</li> <li>・研修後アンケート調査を行い、次年度の研修会に生かす。</li> </ul>
<b>開催方法</b>	・新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、地区ごとに受講日を設定し、参加人数を減らすこととする。
<b>■ALT研修会（外国語指導助手の指導力等向上研修会）</b>	
<b>目的</b>	全ての外国語指導助手（ALT）及び英語担当教員を対象に、効果的な語学指導ができるよう、必要な知識・技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究・協議を行う。
<b>実施形態</b>	11月（2日間）
<b>対象者</b>	全てのALT（約90名）及びALTの所属校等の中高英語教員（約110名）
<b>研修内容</b>	以下の内容に関する講演やワークショップを行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① コミュニケーションに対する積極的な態度を育てたり、コミュニケーション能力を養ったりするための、効果的な指導計画や指導方法について</li> <li>② 効果的なティーム・ティーチングのあり方と実践について</li> <li>③ 教科書及びその他の教材の活用について</li> <li>④ 我が国の小・中学校・高等学校等における外国語教育をめぐる諸問題について</li> <li>⑤ 地域に根ざした国際理解教育・国際交流について</li> <li>⑥ 外国語指導助手の職務上の諸問題等について</li> <li>⑦ 再任用ALTの役割、職責・職務について</li> </ol>
<b>その他</b>	・研修後アンケート調査を行い、次年度の研修会に生かす。
<b>開催方法</b>	・新型コロナウイルス感染症の状況によって、オンラインでの開催を検討する。
<b>■各種研修会</b>	
県高等学校教育研究会英語部会研究発表大会、県高等学校教育課程講習会、県中学校教育課程研究協議会、県小学校教育課程研究協議会等、各種研修会において、県教育委員会として適切な指導・助言を行う。	

富山県教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
		公表(%)	100	46	100	42.9	100	100	100	50.8	100	
		達成状況の把握(%)	100	42.9	100	54	100	100	100	55.5	100	
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	70	59.9	70	60.5	70	70	70	70	63.3	70	
	③パフォーマンステストの実施状況											
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	1.4	1.6	2	1.7	2.5	3	1.6		
			コミュニケーション英語Ⅱ	1.2	1.4	1.6	1.4	2	2	1.5	2	
			コミュニケーション英語Ⅲ	1	0.6	1	0.8	1	1.2	0.4	1	
		○ライティングテスト(回)	英語表現Ⅰ	1.6	1	1.6	1.4	1.6	1.6	0.9		
			英語表現Ⅱ	1.4	1	1.4	1.9	1.4	1.4	0.8	1	
			コミュニケーション英語Ⅰ	1.4	2.1	2.5	2.7	2.5	2.5	2.8		
	新課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅱ	1.2	1.2	1.2	3.2	1.2	1.4	2.9	3	
			コミュニケーション英語Ⅲ	1	1.1	1	2.3	1	1.2	2.7	3	
			英語表現Ⅰ	1.6	1.7	2	3.6	2	2.5	2.9		
		○ライティングテスト(回)	英語表現Ⅱ	1.4	2.6	3	4.7	3	4	2.9	3	
			英語コミュニケーションⅠ								3	
			英語コミュニケーションⅡ									
	④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	英語コミュニケーションⅢ										
		論理・表現Ⅰ									1	
		論理・表現Ⅱ										
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	論理・表現Ⅲ											
	英語コミュニケーションⅠ									3		
	英語コミュニケーションⅡ											
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	英語コミュニケーションⅢ											
	論理・表現Ⅰ									3		
	論理・表現Ⅱ											
	論理・表現Ⅲ											

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	
		公表(%)	100	8.9	100	16.5	100	100	100	26	100
		達成状況の把握(%)	100	39.2	100	41.8	100	100	100	46.8	100
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	75	74	75	84.2	90	90	90	68.6	90	
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	5	2.8	5	3.2	5	5	4.2	5	
		ライティングテスト(回)	5	3.7	5	4	5	5	3.7	5	
	④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	70	69.8	70	72.9	80	85	62.4	90		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	55	44.3	55	46.9	55	55	53	55			
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	50	44.6	50	46.2	50	50	43.8	50			

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)				30	80	72.6	100		
		公表(%)				20	50	26.8	80		
		達成状況の把握(%)				10	30	55.9	50		

独自	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中高	1	⑦小中連携を実施している中学校の割合				75.9		80	55.8	100		
	2	⑦中高連携を実施している高等学校の割合				7.9		15	81.1	80		